



ITOCHU ENEX
TEAM IMPUL

Race Report

2018 SUPER FORMULA Round 6
2018.9.8 sat ~ 9 sun

HOSHINO RACING

壮絶な雨のレースを制して1&3フィニッシュ

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

No.19 関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi

No.20 平川 亮 Ryo Hirakawa

このたびの台風21号および平成30年北海道胆振東部地震により、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
一日も早く復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦が、岡山県の岡山国際サーキットで開催されました。前戦を終えた時点で、ITOCHU ENEX TEAM IMPULはNo.20平川亮がポイントランキング4位、No.19関口雄飛が5位に着けています。

予選は雨交じりのウエットコンディション、決勝は大雨となって天候に翻弄されたレースでした。両日ともに「Enjoy Honda」というイベントが併催されたこともあり、悪天候にも関わらず多くのファンがサーキットに集まって、声援を送ってくれました。そして、ITOCHU ENEX TEAM IMPULは、素晴らしい成績を収めることができたのです。



岡山国際サーキット
コース全長：3,703m



9/8(土) 公式予選 天候：雨 コース：ウエット 気温／路面温度：Q1開始21℃／26℃

朝から激しく降っていた雨は予選が始まる前にほぼ上がり、雲間から時おり青空が覗きます。路面はウエットコンディションですが、水の量は多くありません。予選アタック中にも路面状況が変わっていくため、マシンのセットアップは難しくなり、チームの経験と技術が問われます。

岡山国際サーキットはオーバーテイクが難しいコースで、また翌日も雨が見込まれていたため、視界の良い前方のグリッドから決勝をスタートしたいところです。予選は通常通りQ1～Q3で争われるノックアウト方式。20分間のあいだに出走全19台から14台にしばられるQ1は、定刻通り15時15分にスタートしました。

セッションが始まると、各車一斉にコースイン。ITOCHU ENEX TEAM IMPULの2台もNo.19の関口雄飛、No.20の平川亮と続けてコースに入りました。全車ウエットタイヤを装着しています。しかし開始から5分とたたないうちに、No.7トム・ディルマン選手 (UOMO SUNOCO TEAM LEMANS) とNo.15福住仁嶺選手 (TEAM MUGEN) が相次いでコースアウト。赤旗が出されてQ1セッションは中断されます。

セッションが再開されたのは15時37分。残り時間は16分5秒。再開と同時に各車が列をなしてコースインしました。余談ですが、ウエットタイヤは濡れた路面には強いですが、乾いた路面を走行して熱くなりすぎるとグリップ力が下がってしまいます。そのため乾きつつあるウエットコンディションというのはタイヤのマネージメントが非常に重要。タイヤを冷やし過ぎず、熱くし過ぎずという塩梅が難しいのです。この時はコース上に水の量が少ないところもあったため、ウエットタイヤの能力をきちんと活かしてアタックできるのは1～2周くらいと考えられました。

残り時間が12分30秒を切ったあたりで、No.20平川がコントロールラインを通過、アタックに入ります。セクター1、セクター2とベストタイムを刻み、1'26.895と真っ先に26秒台に入れてトップに立ちました。そしてそのままピットに入り、ライバルたちの動向を見守ります。結局再びコースに戻ることはなく、トップタイムでQ2に進出しました。

No.19関口は残り9分10秒あたりからアタックに入りましたが1'28.669とこの時点で11番手。ピットインして次のアタックに備えますが、今ひとつセットアップが決まりません。残り時間4分00秒。関口がコースに戻り、すぐにアタックに入ります。残り1分30秒。関口のタイムは14番手でQ2に進出できるかどうかの境目。残り40秒。1'28.266でコントロールラインを通過して12番手。残り19秒で13番手に落ちるものの、チェッカーフラッグを受けたラップで1'28.168を刻んで12番手にまで戻し、何とかQ2に進出しました。

10分のインターバルをはさみ、14台から8台へとしぼる7分間のQ2がスタートしたのは16時4分。開始早々にコースインするマシンが多いものの、ITOCHU ENEX TEAM IMPULの2台がコースに入ったのは50秒ほど経ってからでした。2台とも残り4分を切ったあたりからタイムアタックに入ります。関口はQ1でのセットアップを修正し、徐々に本来の力を発揮しました。1本目のアタックで1'26.767をマーク、チェッカーフラッグ時にも1'26.330へとタイムアップを果たします。2番手の平川を含め4台には届かなかったものの、5番手。ITOCHU ENEX TEAM IMPULは2台揃ってQ3へ進出しました。

インターバル10分。トップ8のグリッドを決めるQ3は16時21分に始まりました。ウェットコンディションは変わりませんが、路面の水はさらに少なくなり、ところどころ乾いた路面も見えます。開始直後にコースインしたのは2台のみで、残りの各車は待ちの体制。ITOCHU ENEX TEAM IMPULの関口と平川が続けてコースに入ったのは、残り6分を切ってからでした。テールトゥノーズでじゃれ合うようにウォームアップをしたのち、ヘアピンコーナー手前で関口が平川に前を譲り、間合いを取ります。残り46秒。No.18小林可夢偉 (carrozzeria Team KCMG) が1'24.466をマークしてトップに躍り出ます。チェッカーフラッグが振られたあと、飛びこんできた平川のタイムは1'25.026。一歩及びません。しかし間をあけてチェッカーを受けた関口が1'24.446をマーク！ 今季初のポールポジションを獲得しました！

ITOCHU ENEX TEAM IMPULは関口が1番手、平川が3番手という素晴らしいグリッドで翌日の決勝を迎えることとなります。関口はもちろんのこと、闘将と呼ばれる監督の星野からもさすがに笑顔がこぼれました。

9/9(日) 決勝

天候：雨 コース：ドライ

気温／路面温度：23℃／24℃

決勝レース距離3.703km×34Laps=125.902km



決勝日は朝から激しい雨。午前8時の時点で早々に決勝スタート時刻が14時5分から13時55分へ、周回数が68周から54周へと変更されました。しかし降り続く雨のため、コースのところどころに川が流れるような状況となり、さらにリスケジュールがなされます。最終的にスタート進行開始が14時10分、決勝スタートが14時55分となりました。小康状態の雨の中、8分間のウォームアップ走行を終え、ピットに戻り最終調整。そしていよいよダミーグリッドに付いてフォーメーションラップを待ちます。しかしフォーメーションラップのスタート時刻が近づくにつれ、再び雨が強くなりました。そのためフォーメーションラップのスタート5分前に急遽セーフティーカースタートとすることが発表されます。

セーフティーカースタートは、文字通りセーフティーカーに先導されながらのスタートのこと。決勝レースとして周回は重ねますが、セーフティーカーが先導しているうちはもちろん追い越し禁止。周回中にトラブルなどでマシンが止まってしまったらリタイヤです。コースの安全が確認され、セーフティーカーの点滅するフラッシュライトが消灯した次のコントロールラインが実質的なレースのスタートとなります。セーフティーカーのフラッシュライトが消えた瞬間、再スタートに向けてドライバーたちの駆け引きが始まります。



14時55分、ようやく決勝レースがスタート。セーフティーカー先導のもと、ITOCHU ENEX TEAM IMPUL No.19の関口雄飛を先頭に、隊列が組んでの走行です。コース上はそこかしこに水たまりが生じ、川が流れています。ゆっくりとしたスピードであるにも関わらず、マシンの後輪からはうず高く水煙が舞い上がり、視界をさえぎっていました。4周、5周と周回を重ねても、状況は好転しそうもありません。そしてスタートから7周目の途中、15時13分にセーフティーカー先導のまま赤旗が提示されます。レース中断。各車メインストレートのグリッドに戻ってマシンを止め、再開を待ちます。このまま中止ということも十分考えられる状況でしたが、各チームとも緊張の糸はほどきません。雨に打たれて肌寒いなか、観客の皆さんも再開を待っていました。

10分、20分と時は過ぎ、中止になりそうな雰囲気サーキットに漂い始めた頃、奇跡的に雨足が弱まります。そして中断から30分以上が経過した15時49分、16時10分からのレース再開と51分43秒のレース制限時間が発表されました。

16時10分、セーフティーカースタートで8周目からレースが再開。再び関口を先頭に隊列が続きます。ゆっくりと周回を重ねていましたが、11周目になってセーフティーカーのペースが上がります。そして12周目のバックストレート、ついにフラッシュライトが消灯！各車瞬時に戦闘モードへとスイッチ！メインストレートでグリーンフラッグが振られ、本来のレースがスタートしました！

まずは順当に関口が先頭で1コーナーに飛びこみますが、背後からオーバーテイクシステムを作動させたNo.18小林選手が迫ります。彼はアトウッドカーブで関口の真後ろにつけるとバックストレートで再びオーバーテイクシステムを作動させ、ヘアピンでインに飛びこみます。しかし関口もオーバーテイクシステムを作動させており、立ち上がりで前に出ます。関口はリボルバーコーナー、パイパーコーナーとポジションを死守するものの、その先の短い直線、Wヘアピンと猛チャージを受けます。Wヘアピン2つ目の立ち上がりでは関口のリアに軽く接触、フロントノーズを破損するほどのアグレッシブさ。続くマイクナイトコーナー手前でついに先行を許してしまいます。

関口もトップ奪還を狙いますが、小林選手はタイヤの状態がすごく良く、ペースをぐんぐん上げていきます。17周目終了時点で7.227秒のリードを築かれてしまいました。もちろん関口はあきらめません。18周目からはタイヤのグリップが良くなり、少しずつ差を詰めていきます。3番手を走行している平川もペースが上がリ、21周目にはトップ3台のみが1分29秒台で走行するようになりました。そして関口は22周目を終えた時点で、小林選手との差を5.226秒にまで詰めたのです。

23周目、レースの流れが変わります。10位争いをしていたNo.15福住選手とNo.7ディルマン選手が22周目の最終コーナーで接触してコースアウト。福住選手はリスタートできましたが、ディルマン選手は破損したフロントウイングをコース上に残し、自らはグラベル上にストップしてしまいました。これによりセーフティーカーが導入され、関口と小林選手の差が一気に詰まります。

小林選手を先頭に再び隊列を組んでセーフティーカーに続きます。24周目、25周目を隊列のまま消化した26周目、バックストレートエンドでフラッシュライトが消灯。レースの再スタートが告げられます。小林選手はスピードを一気に抑えてセーフティーカーと間合いを広げつつ、Wヘアピン出口から一気にスパート！ 関口と平川も追いつぎますが、1コーナーまでには届きません。しかし小林選手はタイヤに無理をさせていたのか、Wヘアピン1つ目でコースアウト。すぐにコースに復帰したため、平川の前に入られてしまいましたが、関口がトップに立ちます！

そこから30周目まで、関口は小林選手と約1秒の差をキープする静かなバトルを繰り広げます。そして31周目。関口はオーバーテイクシステムを使った小林選手に0.535秒差まで詰められましたが、首位をキープ。32周目のアトウッドコーナーでインに飛びこまれますが、それは関口が減速したため。そこにはコースイン側をふさぐように、単独スピンで停止したままのNo.15福住選手がいたのです。小林選手は衝突を回避して関口の後ろにつけました。どうやらイエローフラッグが見えなかったようです。

そして関口と小林選手のバトルが再開されようとするまさにそのタイミングで、再びセーフティーカーが導入。残り時間が5分を切っていたこともあり、セーフティーカー先導のままレースが終了。関口が今シーズン初のトップチェッカーを受け、チームにも今季初優勝をもたらしました！ 天候と戦い、小林選手と戦い、死力を尽きたレースで勝利し、関口はコクピットで両手を突き上げます。平川も3位をキープしたため、ITOCHU ENEX TEAM IMPUL は2名のドライバーが表彰台に登るという快挙を成し遂げました。

皆様から頂いている暖かい声援に対して、少しはご恩返しができたと思います。いつもありがとうございます。

2018 年 協賛会社様





























今回のレースは、既定の周回数に達しなかったため、決勝はハーフポイントとなります。第6戦を終え、ITOCHU ENEX TEAM IMPULはチームランキングで2位。そしてドライバーは、No.19関口雄飛がシリーズランキング4位、No.20平川亮が同5位につけています。今シーズンも残すは1戦のみ。今回の結果で勢いのまま、最終戦の鈴鹿大会も必勝を期しタイトルを獲得いたします。ご声援のほど、よろしくお願いします。

TEAM IMPUL Next Race Information

- SUPER GT 第6戦 9/15(土)～16(日)スポーツランドSUGO
- 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦10/27(土)～28(日)鈴鹿サーキット

www.impul.co.jp  @IMPUL_official  IMPUL.official

ドライバーからのコメント



No.19 関口 雄飛

Yuhi Sekiguchi

カムイ選手が序盤スーパー速くて、焦りましたが
勝たせてくれたチームに感謝です。

また、カムイ選手とは接触もありましたが、
お互いがプロとしてレースをガチで戦った証拠でもあると思います。
次戦も頑張ります。



No.20 平川 亮

Ryo Hirakawa

トップ争いに絡めず今日も悔しかったですが、
まずは2戦連続表彰台！

不安定な天候でレースが出来た事にも感謝！
次こそは、優勝狙います！





9/8(土) 公式予選

天候：雨 コース：ウエット
気温／路面温度：Q1開始21℃／26℃



■ Qualifying						2018.9.8
Po	No	Driver	Team/Type	Q1	Q2	Q3
1	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	1'28.168	1'26.330	1'24.446
2	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	KCMG Elyse SF14 TOYOTA RI4A	1'27.091	1'25.548	1'24.466
3	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	1'26.895	1'26.138	1'25.026
4	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	DOCOMO DANDELION M5S SF14 Honda HR-417E	1'27.200	1'26.220	1'25.095
5	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	1'27.017	1'26.230	1'25.153
6	4	山下 健太 Kenta Yamashita	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	1'27.511	1'26.501	1'25.340
7	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	REAL SF14 Honda HR-417E	1'27.057	1'26.545	1'25.429
8	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	1'27.757	1'26.562	1'25.589
9	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	1'27.258	1'26.718	
10	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	1'28.530	1'26.803	
11	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	1'27.805	1'26.811	
12	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	DOCOMO DANDELION M6Y SF14 Honda HR-417E	1'27.529	1'27.481	
13	37	ジェームス・ロシター James Rossiter	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	1'27.747	1'27.614	
14	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	1'28.198	4'42.033	
15	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	1'28.620		
16	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	1'28.821		
17	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	B-Max Racing SF14 Honda HR-417E	1'29.939		
以上予選通過						
18	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	1'33.377		
19	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	1'57.432		

予選通過基準タイム（107%） 1'32.978
*本予選(Q1)は、開始3分55秒時点で赤旗提示。残り時間16分5秒で再開した。赤旗中断 15:18～15:37

9/9(日) 決勝

天候：雨 コース：ドライ

気温／路面温度：23℃／24℃

決勝レース距離3.703km×34Laps=125.902km



Race							2018.9.9
Po	No	Driver	Car Name/Engine	Laps	Total Time	Delay	Best
1	19	関口 雄飛 Yui Sekiguchi	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'20.682		1'29.558
2	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	KCMG Elyse SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'21.501	0.819	1'29.507
3	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'23.572	2.89	1'29.750
4	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	DOCOMO DANDELION M5S SF14 Honda HR-417E	34	2h08'24.680	3.998	1'30.359
5	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'25.514	4.832	1'30.723
6	4	山下 健太 Kenta Yamashita	ORIENTALBIO KONDO SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'27.537	6.855	1'30.933
7	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'28.690	8.008	1'31.142
8	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	JMS P.MU/CERUMO・INGING SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'29.906	9.224	1'31.108
9	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	DOCOMO DANDELION M6Y SF14 Honda HR-417E	34	2h08'31.031	10.349	1'31.814
10	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	34	2h08'32.422	11.74	1'32.316
11	37	ジェームス・ロシター James Rossiter	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'32.900	12.218	1'32.137
12	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	REAL SF14 Honda HR-417E	34	2h08'37.066	16.384	1'31.858
13	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	34	2h08'38.358	17.676	1'31.878
14	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	TCS NAKAJIMA RACING SF14 Honda HR-417E	34	2h08'40.776	20.094	1'31.454
15	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	B-Max Racing SF14 Honda HR-417E	34	2h08'41.934	21.252	1'33.032
16	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	34	2h08'44.071	23.389	1'31.858
17	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	VANTELIN KOWA TOM'S SF14 TOYOTA RI4A	34	2h09'04.375	43.693	1'31.866
18	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	TEAM MUGEN SF14 Honda HR-417E	30	1h59'35.523	4 Laps	1'30.356
以上完走							
19	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	UOMO SUNOCO SF14 TOYOTA RI4A	21	1h42'21.422	13 Laps	1'31.170

： 車両：SF14 / タイヤ：ヨコハマ
：

(8～11周回まで) (赤旗中断 15:13～16:10)

本決勝レースは、SC導入した。(23～26周まで)(32～34周まで)

参加台数：19台 出走台数：19台

RANKING

■ Driver ranking

Po	No	Driver	Rd1	Rd2	Rd3	Rd4	Rd5	Rd6	Rd7	Total
1	3	ニック・キャシディ	2	-	8	11	6	2		29
2	1	石浦 宏明	5	-	0	8	11	1		25
3	16	山本 尚貴	11	-	10	1	2	0		24
4	19	関口 雄飛	8	-	0	3	0	6		17
5	20	平川 亮	0	1	0	5	8	3		17
6	5	野尻 智紀	6	-	3	0	1	2.5		12.5
7	36	中嶋 一貴	1	-	6	4	-	0		11
8	18	小林 可梦偉	0	-	3	0	-	4		7
9	2	国本 雄資	0	-	0	6	0	0.5		6.5
10	8	大嶋 和也	0	-	0	2	4	0		6
11	4	山下 健太	0	0	1	0	3	1.5		5.5
12	6	松下 信治	0	-	0	0	5	0		5
13	7	トム・ディルマン	-	-	5	0	0	0		5
14	64	ナレイン・カーティケヤン	0	-	4	0	0	0		4
15	65	伊沢 拓也	4	-	0	0	0	0		4
16	17	塚越 広大	3	-	0	0	0	0		3
	37	ジェームス・ロシター	0	-	0	0	0	0		0
	15	ダニエル・ティクトゥム	-	-	0	0	-	0		0
	18	中山 雄一	-	-	-	-	0	0		0
	50	千代 勝正	0	-	0	0	0	0		0
	7	ピエトロ・フィッティバルディ	0	-	-	-	-	0		0
	15	福住 仁嶺	0	-	-	-	0	0		0
	36	J.P.デ・オリベイラ	-	-	-	-	0	0		0
	15	阪口 晴南	-	-	-	-	-	0		0

■ Team ranking

Po	Team	Rd1	Rd2	Rd3	Rd4	Rd5	Rd6	Rd7	Total
1	KONDO RACING	2	0	9	10	9	3.5		33.5
2	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	-	0	8	8	8		32
3	JMS P.MU/CERUMO・INGING	5	-	0	14	10	1.5		30.5
4	TEAM MUGEN	10	-	10	1	2	0		23
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	-	2	0	6	2.5		16.5
6	VANTELIN TEAM TOM'S	1	-	6	4	0	0		11
7	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	-	5	2	4	0		11
8	TCS NAKAJIMA RACING	4	-	4	0	0	0		8
9	carrozzeria Team KCMG	0	-	3	0	0	4		7
10	REAL RACING	3	-	0	0	0	0		3
	B-Max Racing team	0	-	0	0	0	0		0

